

革新的なITマネジメントを実現する「EIM」

(エンタープライズ・インフラストラクチャ・マネジメント)

世界最大の独立系総合ソフトウェアベンダーとして、ITマネジメントの市場をリードするCA(コンピュータ・アソシエイツ)約30年の長きにわたり、ITマネジメントの分野で常に革新的なソリューションを提供してきたCAが、EIM(エンタープライズ・インフラストラクチャ・マネジメント)という革新的なコンセプトに基づく新たなマネジメント・ソフトウェア戦略を打ち出した。EIMは、経営上の戦略的観点に基づくトータルなITマネジメントを実現するためのコンセプトとして、今、もっとも注目を集めている。

経営上の戦略的視点に基づく ITマネジメントを実現するEIM

今や企業経営の重要なインフラストラクチャとなっているITの価値を最大化するためには、経営上の戦略的視点に基づく適切なITマネジメントが必要とされている。「マネジメント」は英語では「経営」という意味もある。同じようにITシステム全体をうまく動くようにリードし、価値あるものにしていくことも「経営」につながるマネジメントである。CAが提案するマネジメントソフトウェアとは、ソフトウェアのテクノロジーを活用することでビジネス価値の創出に不可欠なITシステムのマネージを総合的かつ効率的、効果的に実現するものと考えている。そのCAが、新たなマネジメント・ソフトウェア戦略を打ち出した背景には、企業におけるIT投資の価値、さらには企業のビジネスそのものの価値を最大化したいという強い思いがある。この価値の最大化こそが、メインフレームの運用管理に始まり、オープン系や分散システム環境など、約30年の長きにわたり、常に時代の流れに対応した革新的なソリューションをワールドワイ

ドに展開し続けてきたCAの目指すITマネジメントのゴールと考えているからにはほかならない。

CAが打ち出した新たなマネジメント・ソフトウェア戦略の具体的なコンセプトである「EIM(エンタープライズ・インフラストラクチャ・マネジメント)」では、企業の人、モノ、金に関わる資産情報を中核に、ITインフラの4つの要素(オペレーション、セキュリティ、ストレージ、ライフサイクルマネジメント)の各機能が統合化された形で包含され、今日のように分散化・複雑化したIT環境をリアルタイムに可視化し、IT資産の最適化と管理業務の徹底した自動化を図ることを目指している。

企業のビジネスとITの関係が密接・不可分になるなか、これまでITマネジメントに関して、ユーザーはジョブ管理、ネットワーク管理、ストレージ管理、サーバーやデスクトップの管理、アプリケーションやデータベースの管理、セキュリティ管理など、各局面に応じたポイントソリューション製品を個別に、あるいは複数ベンダーの製品を組み合わせで導入してきた。しかし最近では、従来のような部分最適ではなく、IT資産の管理をはじめ、経営戦略的観

点でトータルなITマネジメントによる全体最適を図りたいというユーザーが増えてきている。このようなユーザーニーズに応えるべく、CAが新たに打ち出したのがEIMに基づくマネジメント・ソフトウェア戦略だ。

コンピュータ・アソシエイツ(株)マーケティング本部プロダクト・マーケティング部の関信彦部長は、「サーバー管理、ストレージ管理、ネットワーク管理、アプリケーション及びデータベースの管理、セキュリティ管理、アセット管理といった分野ごとのポイントソリューションを提供するベンダーはたくさんあります。しかし、ITマネジメントからサービスマネジメントまで統合・自動化することによって全体最適という価値を提供できるベンダーは、CA以外にはありません。これはCAの大きな強みであり、それを実証するだけの実績も歴史もあります。CAが提唱するEIMは、複数ベンダーのポイント・ソリューション製品を組み合わせることに起因する複雑性と非効率性を排除することによってTCOを最小化するとともに、IT環境の最大効率化のための可視化とマネジメント業務の自動化機能を提供します。これにより、統合に

よるコストと運用上の問題を間違いなく解決します。」と語る。

資産情報を一元管理するMDBを核にした包括的なコンセプト

EIMは、企業の構成要素である人、モノ、金の3つの資産情報とポリシーを管理するMDB (Management DataBase) を中核に、サービス・マネジメント、サービス・デリバリー、サービス・サポート、財務管理の各ソリューションを構成するオペレーション、セキュリティ、ストレージ、ライフサイクルに関する製品群を協調動作させ、さらにそれらのソリューションを包括的に覆うインテリジェンス層によりこれらソリューションに関わる情報のすべてを可視化して効率的でトータルなITマネジメントを実現しようという考えである。

MDBは、全ての資産情報を統合的に一元管理し、それらの情報を参照・分析することを可能にするリポジトリだ。CAでは、「統合+オープン」という観点で、このMDBには、CA製品の管理情報だけでなく、他社のポイントソリューションの管理情報をも蓄積しておくことができる。CAを含むすべての製品の管理情報をMDBに統合することで、製品や機能単位でそれぞれのソフトの管理画面から管理項目を参照・分析するだけでなく、そのIT資産に対するすべての情報をインテリジェンスと呼ばれる情報ポータルで一元的に参照・分析することが可能となる。このため、既存のポイントソリューションやIT資産を統合的にマネジメントするこ

とが可能だ。

つまり、MDBを基盤とすることにより、オペレーション、セキュリティ管理、ストレージ管理、ライフサイクルマネジメント、さらには財務管理までをシームレスに統合することが可能になり、これら一連の管理に関わる業務の自動化と情報の可視化が実現されるというわけだ。

「EIMやMDBといった概念は、ハードウェアセントリックなソリューション展開を行っているベンダーとは異なり、独立系総合ソフトウェアベンダーとして、ニュートラルな立場で、ビジネスにおけるITインフラの重要性や企業が抱えるIT環境の課題を把握し、それに対する圧倒的な製品ラインナップと30年近い経験に培われたノウハウを持つCAだからこそ描ける概念であると思います。」(関 信彦部長)

ITとビジネスの戦略的連携を実現するEIMは、近い将来デファクトに

CAの描くEIMでは、ビジネス・セントリックなIT戦略をユーザー企業自身が強化することを可能にする。たとえば、CAの資産管理、ソフトウェア配布、リスク管理ソフトウェアを統合することで、ビジネス・プロセス全体の管理と、各デス

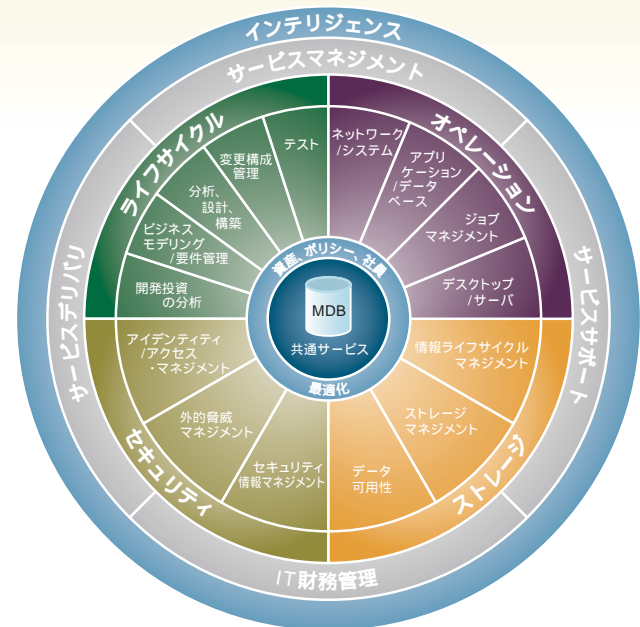


図1 CAのEIM (エンタープライズ・インフラストラクチャ・マネジメント)

クトップとサーバーの管理、さらにセキュリティの確保を実行することを可能にする。その意味で、CAのEIMは、極めて論理的にITのコストを削減し、リスクを軽減すると同時に、冒頭で述べたIT投資の価値と企業のビジネスそのものの価値を最大化する包括的なソリューションのコンセプトと言える。企業の経営者、CIOのみならず、CFOやセキュリティ管理者にも多大なメリットをもたらすEIMは、革新的なITマネジメントを実現するコンセプトとして、近い将来デファクトになる可能性を十分に持っている。

●お問い合わせ先●

コンピュータ・アソシエイツ(株)
CAジャパン・ダイレクト
TEL : 0120-702-600
JapanDirect@ca.com
http://www.caj.co.jp